1603 CC81

レンジフード

取付説明書

壁取付タイプ（表面）
天井取付タイプ（裏面）

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、それに基づき電気工事をおこなってください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区別しています。
  いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- ⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

- **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- **交流 100 V以外では使用しないこと**（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- **アースを確実に取り付けること**（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- **レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- **排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
- **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- **電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること**（取付注意）
  火災・故障の原因になります
- **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること**（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- **自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること**（取付注意）
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

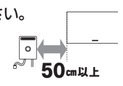
⚠ 注 意

- **浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）**（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- **周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと**（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- **運転中は、指や物を絶対に入れないこと**（接触禁止）
  けがをするおそれがあります
- **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- **レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- **部品の取り付けは確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **・大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**
  - **流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。**
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
  本体の取付用座付ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
  また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。
  湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：勾配 1/100 ～ 1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
  塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- **レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- **排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
- **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠ 注 意

- **周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと**（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- **レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

	製品質量
600 幅	16.5 kg
750 幅	19.0 kg
900 幅	20.5 kg

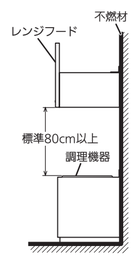
■ 板張りの場合
（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
- 板厚が 20mm 未満の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■ コンクリート、タイル壁の場合
- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■ 土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からレンジフードの下端まで 80cm 以上です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。



4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い
必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

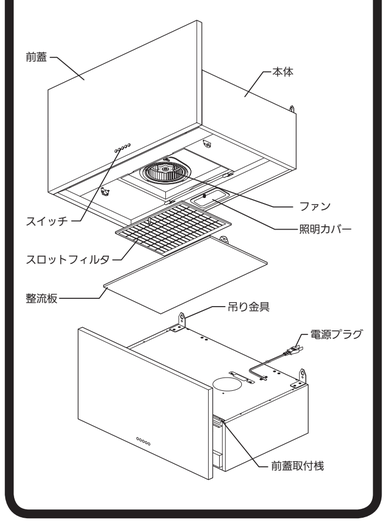
付属品

- **座付ねじ（φ 5.1 × 45）　4 本**
  本体の取り付けに使います。
- **引掛けねじ（φ 5 × 35）　2 本**
  本体の取り付けに使います。
- **ソフトテープ　1 本**
  排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- **排気口　1 個**
  本体とダクトの接続に使います。
  逆風防止シャッター付きです。
- **前蓋　1 枚**
  本体上面の目隠しに使います。
- **前蓋取付桟　1 個**
  前蓋の取り付けに使います。
- **吊り金具　2 個**
  本体の取り付けに使います。

別売品

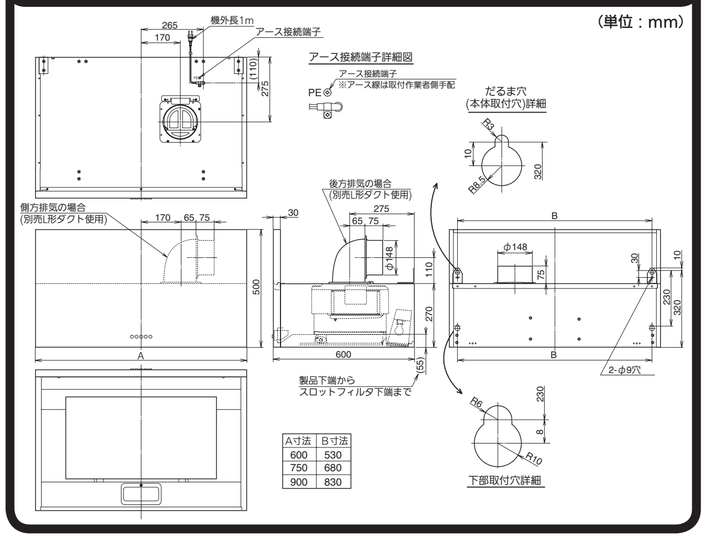
- **L 形ダクト**
  後方・側方排気のときに排気口と組み合わせて使います。
- **横幕板**
  本体側面に取り付けます。
  （左右両面に使用する場合は 2 セット必要です。）
  取付ねじ（M4 × 10）2 本、丸木ねじ（φ 4.1 × 32）1 本が付属します。

各部のなまえ



製品寸法図

（単位：mm）



A寸法	B寸法
600	530
750	680
900	830

取り付けかた

1．付属品の確認

⚠ 注 意

- **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

梱包箱から付属品を取り出し、右上項の付属品一覧により不足がないか確認します。

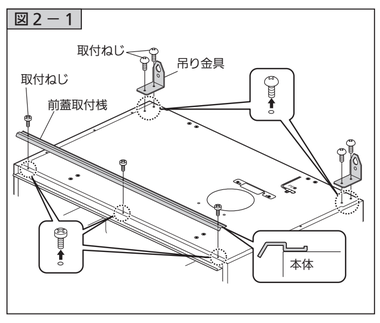
お願い
- ・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- ・前蓋の保護用のクッション材と固定テープは「8. 横幕板と前蓋の取り付け」まではずさないでください。
- ・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

2．本体の準備

1 吊り金具を取り付けます。（図２－１）
本体の天板後方にあらかじめ取り付けられているねじ各 2 本を使用し、付属品の吊り金具を天板の右図位置に取り付けます。

2 前蓋取付桟を取り付けます。（図２－１）
本体の天板前方にあらかじめ取り付けられているねじ 3 本を使用し、付属品の前蓋取付桟を天板の右図位置に取り付けます。

図２－１



3．排気方向の決定

⚠ 警 告

- **レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- **排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
- **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること**（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

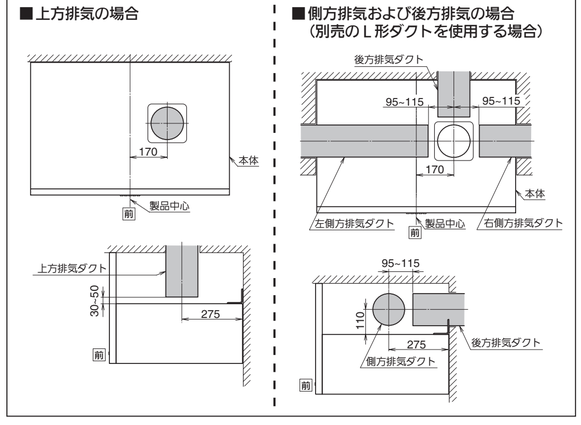
⚠ 注 意

- **浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）**（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- **周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと**（取付禁止）
  火災・故障の原因になります

1 **製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。**（ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。）
また、コンセントの位置を確認してください。（「7. 電気配線」図７－１参照）

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図３－１）

図３－１　（単位：mm）



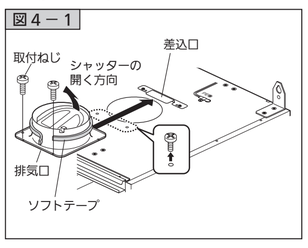
4．排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意します。

■ **上方排気の場合（図４－１）**
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
本体に付いている取付ねじ 2 本を取りはずし、排気口を本体上部の差込口に差し込み、取付ねじ 2 本で取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。

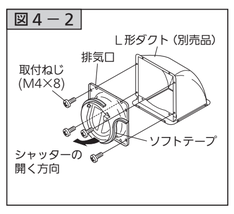
お願い
排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因となります。

図４－１

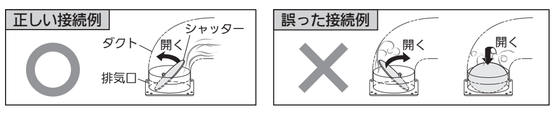


■ **側方排気および後方排気の場合（図４－２）**
（別売のＬ形ダクトを使用する場合）
排気口に付属品のソフトテープを貼り、別売のＬ形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、Ｌ形ダクトに付属している取付ねじ（M4 × 8）4 本でＬ形ダクトに取り付けてください。
※本体への取り付けは、製品の取り付け後におこないます。（「6. ダクトと排気用部品の接続」参照）

図４－２



お願い
別売のＬ形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異音の原因になります。

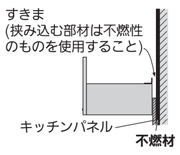


5．本体の取り付け

⚠ 注 意

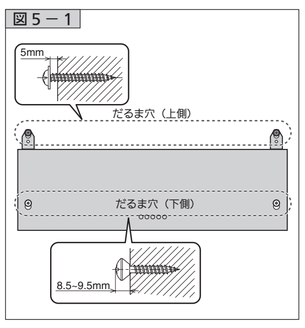
- **レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- **部品の取り付けは確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

お願い
- ・レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ（油）が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
- ・キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。



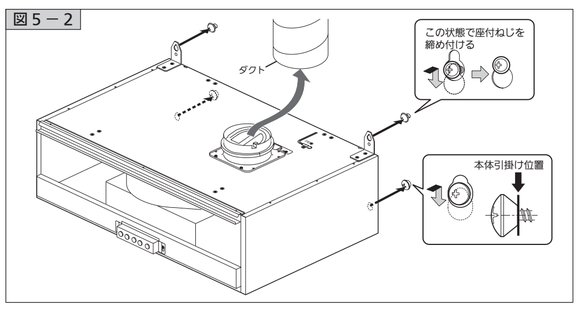
1 だるま穴用座付ねじ 2 本と引掛けねじ 2 本を壁面にねじ込みます。（図５－１）
1）製品寸法図を参照し、上側のだるま穴位置（2 ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
2）下側のだるま穴位置（2 ヶ所）に付属品の引掛けねじ（φ 5 × 35）2 本をねじ込み、しっかりと締め付けます。
※ 引掛けねじが壁に食い込まない程度に締め付けてください。
引掛けねじが壁に食い込んでしまうとフードが取り付かないおそれがあります。

図５－１



2 本体を引っ掛け固定します。（図５－２）
取り付けた座付ねじ 2 本と引掛けねじ 2 本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、上側の座付ねじ 2 本をしっかり締め付けます。

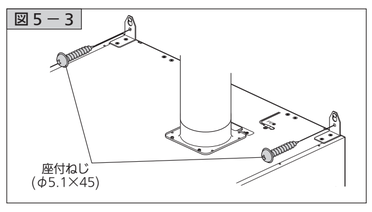
図５－２



お願い
- ・上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
- ・取り付け後、本体が確実に引っ掛けられたことを再度確認してください。

3 本体を固定します。（図５－３）
上側だるま穴の下にある 2 ヶ所のφ 9 穴に、付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をしっかりと締め付けて固定します。

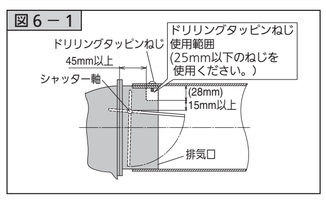
図５－３



6．ダクトと排気用部品の接続

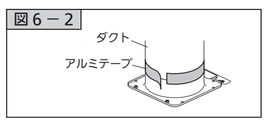
お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図６－１）

図６－１



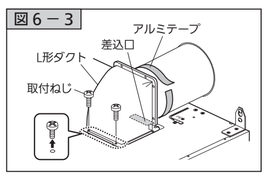
■ **上方排気の場合（図６－２）**
風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。

図６－２



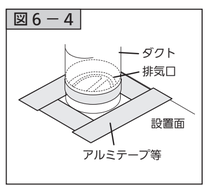
■ **側方排気および後方排気の場合（図６－３）**
（別売のＬ形ダクトを使用する場合）
1）本体に付いている取付ねじ 2 本を取りはずした後、Ｌ形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ 2 本で取り付けます。
2）風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。

図６－３



■ **排気口設置面の漏風確認のお願い（図６－４）**
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図６－４



7．電気配線

⚠ 警 告

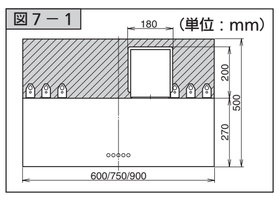
- **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- **交流 100 V以外では使用しないこと**（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- **アースを確実に取り付けること**（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

1 アース工事（D 種接地工事）をおこないます。
※アース線は取り付け作業側にて手配してください。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
- ・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- ・「10. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- ・コンセントは電源コードの長さ（機外長約 1m）を考慮し、右図の範囲内に設置してください。（図７－１）

図７－１　（単位：mm）

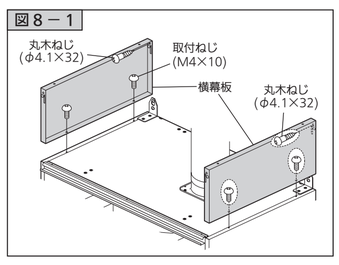


8．横幕板と前蓋の取り付け

■ 横幕板（別売品）を使用する場合

1 横幕板を固定します。（図８－１）
1）本体天面に横幕板を図のように置き、横幕板に付属している取付ねじ（M4 × 10）2 本で横幕板を固定します。
2）横幕板に付属している丸木ねじ（φ 4.1 × 32）1 本で、横幕板を壁に固定します。

図８－１

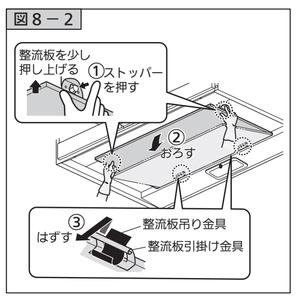


3 本体を固定します。（図５－３）
上側だるま穴の下にある 2 ヶ所のφ 9 穴に、付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をしっかりと締め付けて固定します。

図５－３

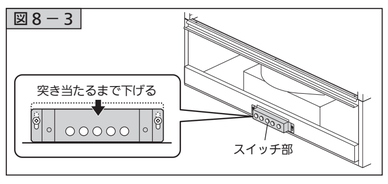
2 整流板をはずします。（図８－２）
1）整流板を両手で支え、少し押し上げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押し、穴からはずします（①）。
2）整流板を両手で支えながら、下へゆっくりとおろします（②）。
3）整流板の後ろを奥にずらしてからそのまま手前に引き出して、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします（③）。
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

図８－２



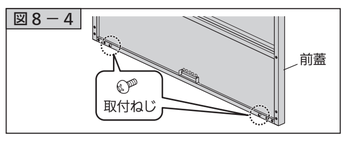
3 前蓋を取り付けます。
1）本体正面のスイッチ部を下に突き当たるところまで下げます。（図８－３）
※スイッチ部が確実に下がっていることを確認してください。

図８－３



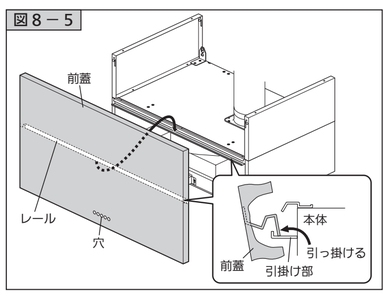
2）前蓋裏面の取付ねじ 2 本をはずします。（図８－４）

図８－４



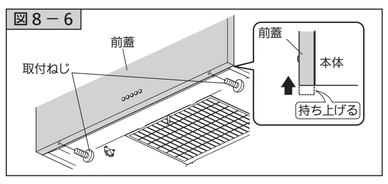
3）前蓋裏面のレールを本体の引掛け部に図のように引っ掛け、スイッチ部のボタンの位置が前蓋の穴と合っていることを確認し、本体側へ押し当てます。（図８－５）

図８－５



4）前蓋を上方に持ち上げ、2）で取りはずした取付ねじ 2 本で本体内側からしっかりと固定します。（図８－６）

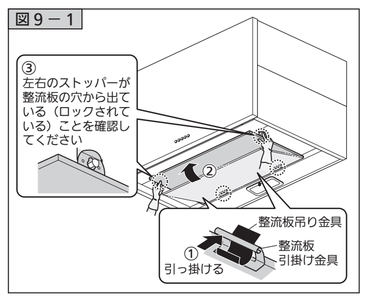
図８－６



9．整流板の取り付け

■ **整流板を取り付けます。**
（図９－１）
1）整流板奥側左右の整流板引掛け金具を、本体の整流板吊り金具に確実に引っ掛けます（①）。
2）整流板を両手で支えながら手前側を上に持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします（②）。
3）整流板を軽く上下に動かしてみて確実に取り付けられたことを確認してください（③）。

図９－１



10. 試運転

⚠ 注 意

- **運転中は、指や物を絶対に入れないこと**（接触禁止）
  けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

11. お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

［製造元］ 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
TEL 042(768)3754（営業部）

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

天井への取り付けかた（別売品のセンターパーツが必要です）

「安全上のご注意」、「取り付け上のお願い」は表面をご覧ください。

取り付け前の調査と準備

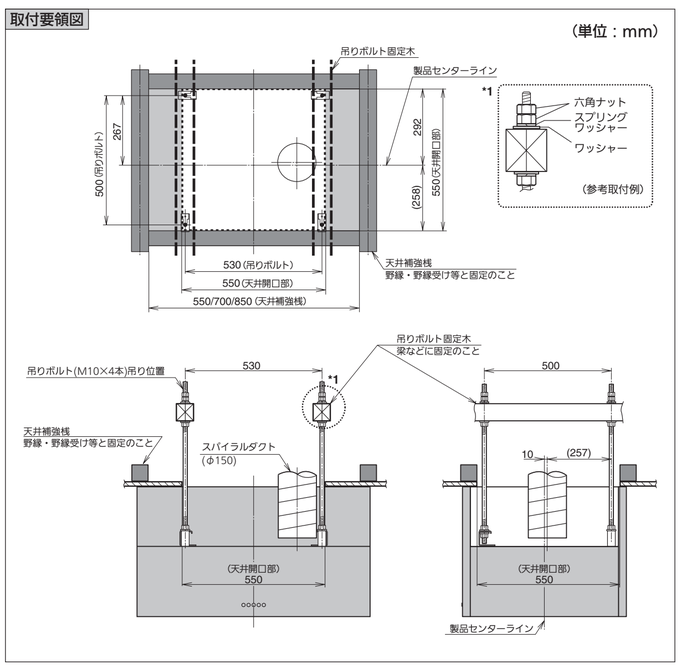
⚠ 警 告

- **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- **レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- **排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
- **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠ 注 意

- **周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと**（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- **レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

取付要領図　（単位：mm）



■ 取付箇所の強度確認
製品を支える強さが必要です。

	製品質量
600 幅	20.5 kg
750 幅	23.5 kg
900 幅	25.5 kg

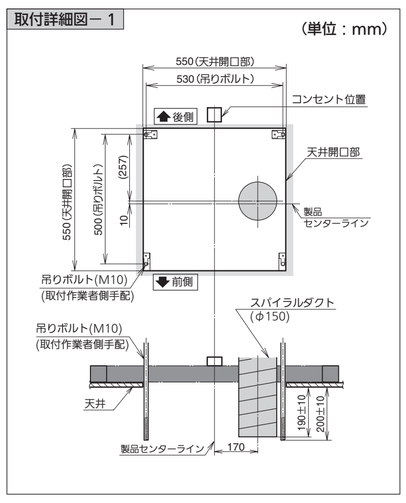
1 天井面への穴あけ
取付詳細図－ 1 および右表を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。
また、天井開口部近くの補強桟または野縁等に専用コンセントを設置してください。

（単位：mm）

天井開口寸法	
前後	左右
550	550

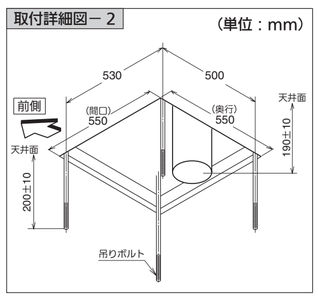
2 排気ダクトの突き出し（取付詳細図－ 1）
φ 150 のスパイラルダクトを、下図の位置に突き出してください。

取付詳細図－ 1　（単位：mm）



3 吊りボルトの取り付け（取付詳細図－ 2）
M10 の吊りボルトを 4 本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは下表の通りです。
※ 吊りボルトは、M10 を用いてください。
※ 吊りボルトは、製品を支える充分な強さを確保してください。必要となる強度は、建物の条件、耐震クラスなどにより異なります。

取付詳細図－ 2　（単位：mm）



お願い
M10 吊りボルト（4 本）、M10 ワッシャー（8 枚）およびナット（8 個）は取付作業者側にて手配してください。

（単位：mm）

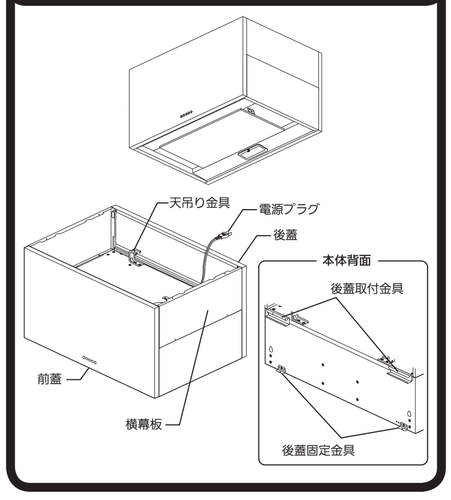
固定ピッチ	
前後	左右
500	530

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

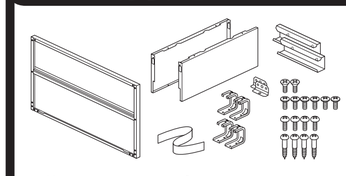
5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い
必ずアース工事（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ



別売品

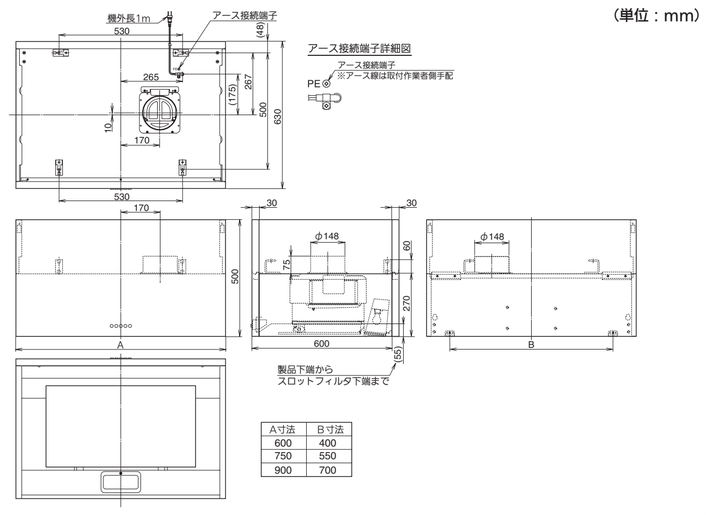


天井取付用センターパーツ
本体後面の目隠しに使います。
天井取付の場合に必要となります。

パーツ内容
- 後蓋 …… 1 枚
- 横幕板 …… 2 枚
- 後蓋取付金具 …… 2 個
- 後蓋固定金具 …… 2 個
- 天吊り金具 …… 4 個
- 低頭ねじ（M4 × 8）…… 6 本
- 皿ねじ（M4 × 10）…… 2 本
- トラスねじ（M4 × 10）…… 4 本
- 丸木ねじ（φ 4.1 × 32）…… 4 本
- アルミテープ …… 1 本

製品寸法図

（単位：mm）



A寸法	B寸法
600	400
750	550
900	700

取り付けかた

1．付属品の確認

⚠ 注 意

- **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

梱包箱から付属品および別売品を取り出し、表面の付属品一覧および裏面の別売品一覧により不足がないか確認します。
※付属品の吊り金具、座付ねじ（φ 5.1 × 45）、引掛けねじ（φ5×35）は天井への取り付けには使用しません。

お願い
取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2．取付準備

⚠ 警 告

- **レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- **排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  火災などの原因になります
- **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること**（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

⚠ 注 意

- **浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）**（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- **周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと**（取付禁止）
  火災・故障の原因になります

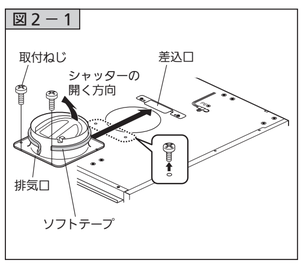
お願い
・床面を傷つけないよう、保護シート等を敷いた上で作業をおこなってください。

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意します。

1 排気口を取り付けます。（図 2 － 1）
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。本体に付いている取付ねじ 2 本を取りはずし、排気口を本体上部の差込口に差し込み、取付ねじ 2 本で取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。

お願い
排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

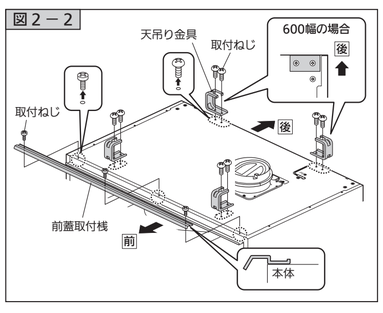
図 2 － 1



2 天吊り金具を取り付けます。（図 2 － 2）
フード天面に取り付いている取付ねじ各 2 本で、天吊り金具を図のように取り付けます。

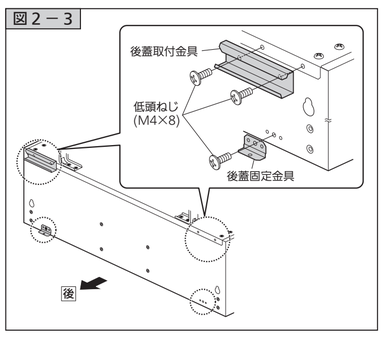
3 前蓋取付桟を取り付けます。（図 2 － 2）
本体の天板前方にあらかじめ取り付けられているねじ 3 本を使用し、付属品の前蓋取付桟を天板の右図位置に取り付けます。

図 2 － 2



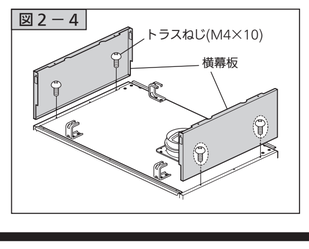
4 後蓋取付金具と後蓋固定金具を取り付けます。（図 2 － 3）
1）本体の後面上部 2 ヶ所に後蓋取付金具を低頭ねじ（M4 × 8）各 2 本で取り付けます。
2）本体の後面下部 2 ヶ所に後蓋固定金具を低頭ねじ（M4 × 8）各 1 本で取り付けます。

図 2 － 3



5 横幕板を取り付けます。（図 2 － 4）
本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、トラスねじ（M4 × 10）各 2 本で横幕板を固定します。

図 2 － 4



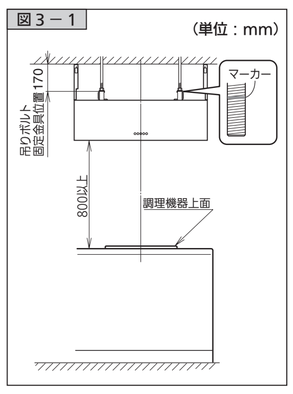
3．本体の取り付け

⚠ 注 意

- **レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- **部品の取り付けは確実におこなうこと**（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります

1 レンジフードの固定位置を決めます。（図 3 － 1）
吊りボルトにマジックペンなどで、天井から 170mm の位置にマーカーをつけます。

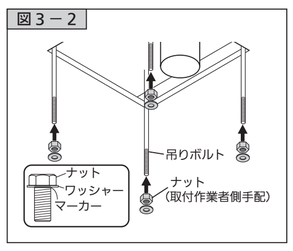
図 3 － 1　（単位：mm）



2 ナットとワッシャーを吊りボルトにねじ込みます。（図 3 － 2）
M10 のナットとワッシャー（取付作業者側手配）を吊りボルトのマーカー位置までねじ込みます。

お願い
取付完了時、調理機器上面から本体下面まで 800mm にならない場合は調節してください。

図 3 － 2

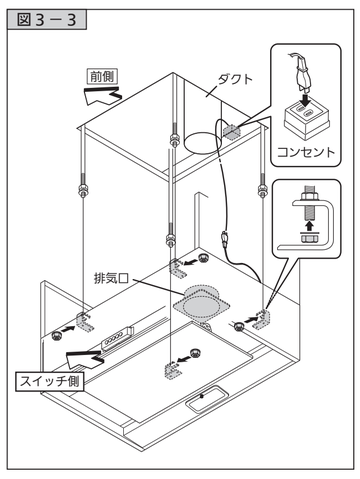


3 本体を吊りボルトに固定します。（図 3 － 3）
1）本体を持ち上げて 4 ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊りボルト下側から M10 のワッシャーとナット（取付作業者側手配）でしっかりと締め付けます。

お願い
ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

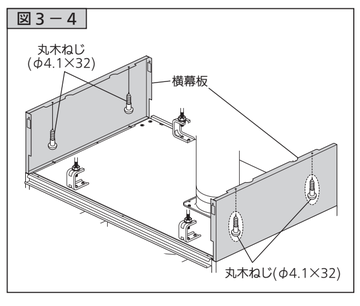
2）アース（D 種接地工事）を取ります。
3）分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグを天井裏などに設置したコンセントに差し込みます。

図 3 － 3



4 横幕板を固定します。（図 3 － 4）
丸木ねじ（φ 4.1 × 32）各 2 本で横幕板を天井に固定します。

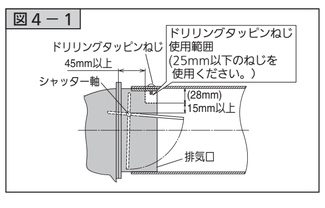
図 3 － 4



4．ダクトと排気用部品の接続

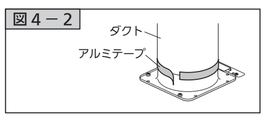
お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 4 － 1）

図 4 － 1



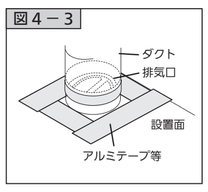
■ 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 4 － 2）

図 4 － 2



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 4 － 3）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 4 － 3



5．電気配線

⚠ 警 告

- **修理技術者以外の人は、絕対に分解したり修理・改造をしないこと**（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- **交流 100 V以外では使用しないこと**（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- **アースを確実に取り付けること**（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

1 アース工事（D 種接地工事）をおこないます。
※アース線は取り付け作業側にて手配してください。

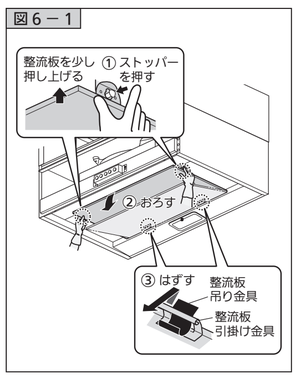
2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
（「3. 本体の取り付け」手順 3 の 3）でおこなってください。）

お願い
・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
・「8. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。

6．後蓋・前蓋の取り付け

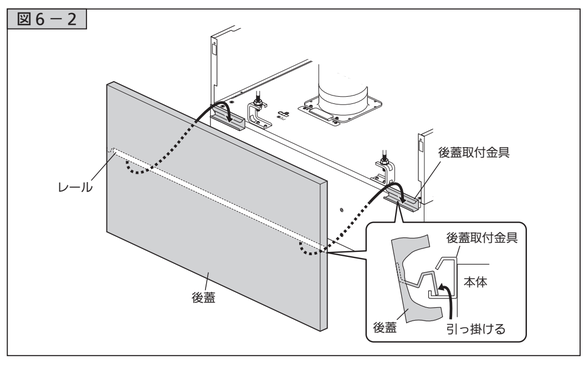
1 整流板をはずします。（図 6 － 1）
1）整流板を両手で支え、少し押し上げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押し、穴からはずします。
2）整流板を両手で支えながら、下へゆっくりとおろします。
3）整流板の後ろを奥にずらしてからそのまま手前に引き出して、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします。
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

図 6 － 1



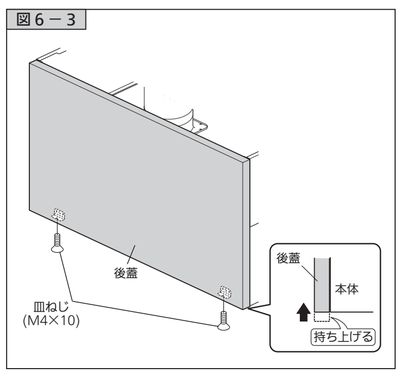
2 後蓋を本体に引っ掛けます。（図 6 － 2）
後蓋裏面のレールを本体の後蓋取付金具に図のように引っ掛け、本体側へ押し当てます。

図 6 － 2



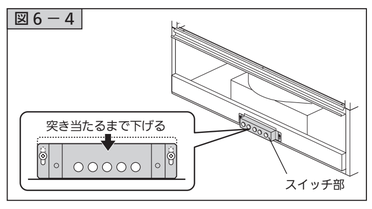
3 後蓋を固定します。（図 6 － 3）
後蓋を上方に持ち上げ、皿ねじ（M4 × 10）2 本で本体下側からしっかりと固定します。

図 6 － 3



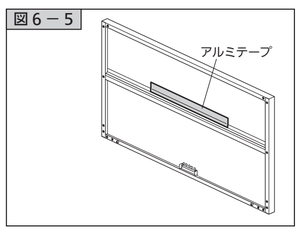
4 前蓋を取り付けます。
1）本体正面のスイッチ部を下に突き当たるところまで下げます。（図 6 － 4）
※スイッチ部が確実に下がっていることを確認してください。

図 6 － 4



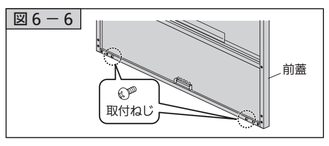
2）前蓋裏面のレールと前蓋にアルミテープを貼り付けます。（図 6 － 5）

図 6 － 5



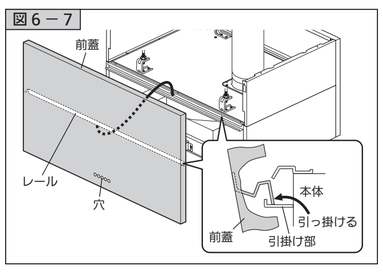
3）前蓋裏面の取付ねじ 2 本を取りはずします。（図 6 － 6）

図 6 － 6



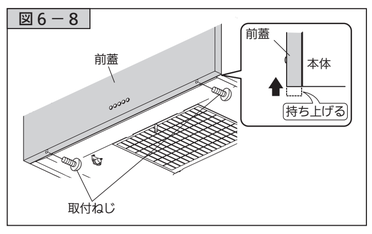
4）前蓋裏面のレールを本体の引掛け部に図のように引っ掛け、スイッチ部のボタンの位置が前蓋の穴と合っていることを確認し、本体側へ押し当てます。（図 6 － 7）

図 6 － 7



5）前蓋を上方に持ち上げ、3）で取りはずした取付ねじ 2 本で本体内側からしっかりと固定します。（図 6 － 8）

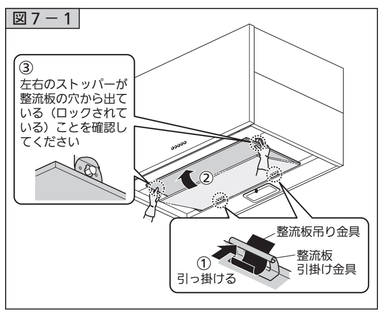
図 6 － 8



7．整流板の取り付け

■ 整流板を取り付けます。（図 7 － 1）
1）整流板奥側左右の整流板引掛け金具を、本体の整流板吊り金具に確実に引っ掛けます（①）。
2）整流板を両手で支えながら手前側を上に持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします（②）。
3）整流板を軽く上下に動かしてみて確実に取り付けられたことを確認してください（③）。

図 7 － 1



8．試運転

⚠ 注 意

- **運転中は、指や物を絶対に入れないこと**（接触禁止）
  けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

9．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

［製造元］ 富士工業株式会社
本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
TEL 042(768)3754（営業部）